

さいたま市防災カルテ

柏陽中学校区

①学区の概況と課題

◆学区の概要

【位置】岩槻区の中央部南西寄りに位置し、見沼区と隣接している。
 【土地利用】学区内には住宅と畑が混在した地域が広がっており、北部に消防署がある。東部に元荒川、西部には綾瀬川が流れる。
 【交通】学区の西部には東北自動車道と国道122号、北部には国道16号が走っている。

◆学区の位置



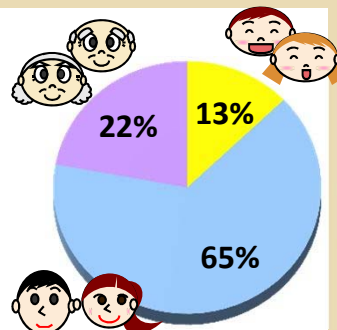
◆学区内被害想定結果

地震	さいたま市直下地震	関東平野北西縁断層帯地震	東京湾北部地震			
最大震度	6強 (6.1)	6強 (6.2)	6弱 (5.6)			
最小震度	6弱 (5.6)	5強 (5.4)	5強 (5.1)			
死者	4人 (0.0%)	2人 (0.0%)	0人 (0.0%)			
負傷者	91人 (0.7%)	60人 (0.4%)	7人 (0.1%)			
避難者	1,262人 (9.4%)	1,136人 (8.5%)	81人 (0.6%)			
全壊建物棟数	103棟 (1.5%)	63棟 (0.9%)	2棟 (0.0%)			
うち焼失棟数	12棟 (0.2%)	17棟 (0.2%)	0棟 (0.0%)			
半壊建物棟数	706棟 (10.2%)	467棟 (6.7%)	128棟 (1.8%)			
水害	荒川	利根川	江戸川	芝川等	綾瀬川等	鴨川等
床上浸水建物棟数	961棟	0棟	0棟	0棟	0棟	0棟
床下浸水建物棟数	205棟	11棟	0棟	0棟	0棟	0棟

※震度のカッコ内は計測震度を、それ以外のカッコ内は学区内の比率を示す。

◆人口概況 (平成22年国勢調査)

	柏陽中学校区	全市平均
総人口	13,398人	
人口等		
0-14歳	1,713人 (13%)	(14%)
15-64歳	8,727人 (65%)	(67%)
65歳以上	2,958人 (22%)	(19%)
人口密度	1,813人/km ²	5,766人/km ²

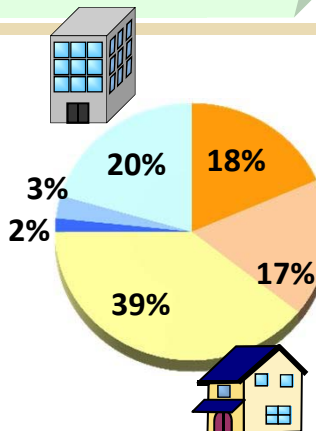


【地震】関東平野北西縁断層帯地震の震度が最も大きくなっているが、他の地域と比べ、相対的にはどの地震の場合でも**被害率は低い**。
 【水害】荒川が氾濫した場合、**地区の1.5%以上が浸水被害**を受ける。

人口割合は全市平均とほぼ等しい一方、**人口密度は低い**。

◆建物概況 (平成23年度さいたま市都市計画基礎調査)

	柏陽中学校区	全市平均
総建物棟数	6,953棟	
建物		
木造(昭和46年以前)	1,280棟 (18%)	(17%)
木造(昭和47-55年)	1,205棟 (17%)	(12%)
木造(昭和56年以後)	2,726棟 (39%)	(45%)
非木造(昭和46年以前)	120棟 (2%)	(1%)
非木造(昭和47-55年)	199棟 (3%)	(3%)
非木造(昭和56年以後)	1,423棟 (20%)	(21%)



全市平均と比較すると、いわゆる**旧耐震基準の木造建物が比較的多い**。

◆防災関連施設情報 (平成26年2月時点)

種別	名称
避難場所	県立岩槻高等学校、柏陽中学校、柏崎小学校、城南小学校、岩槻文化公園
一時・広域避難場所	岩槻文化公園
市・区役所等窓口	府内市民の窓口
消防署・出張所	岩槻消防署
警察署・交番	
救急病院	
応急給水場所	柏陽中学校

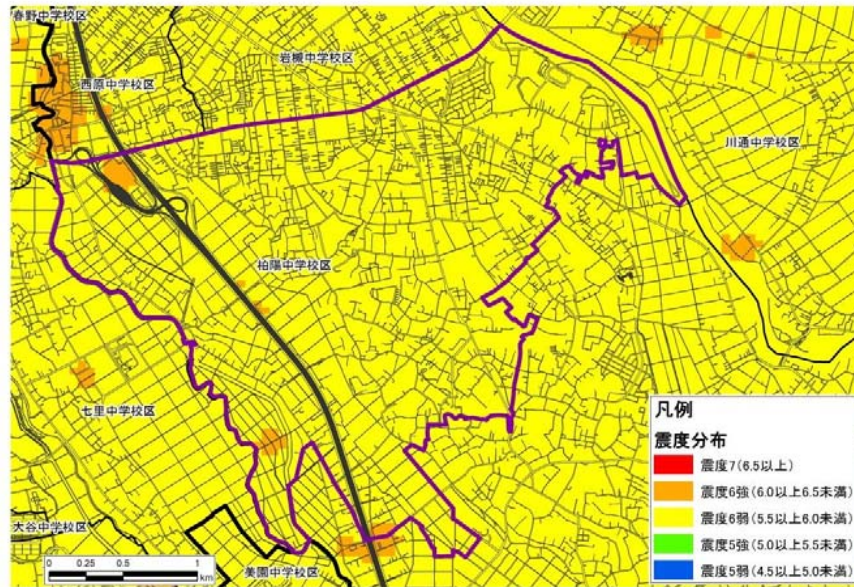
◆被害想定結果からわかる防災上の主なポイント

【耐震化】古い木造建物が多い地区のため、**耐震化率の向上が必要**。
 【水害】地域に水害の危険性が高いエリアがあり、迅速な情報伝達体制や、自主防災組織等による**安全な避難体制の構築が必要**。

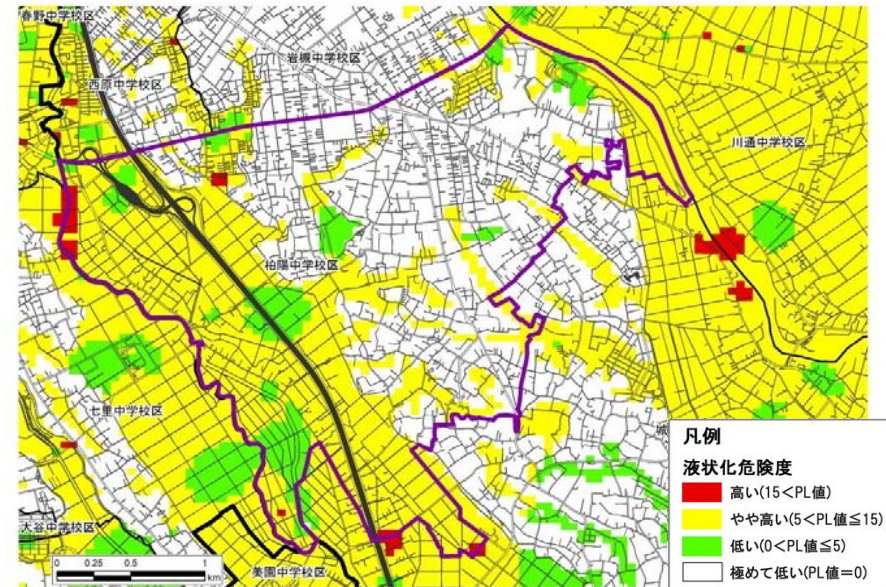
②さいたま市直下地震の想定 さいたま市防災カルテ

柏陽中学校区

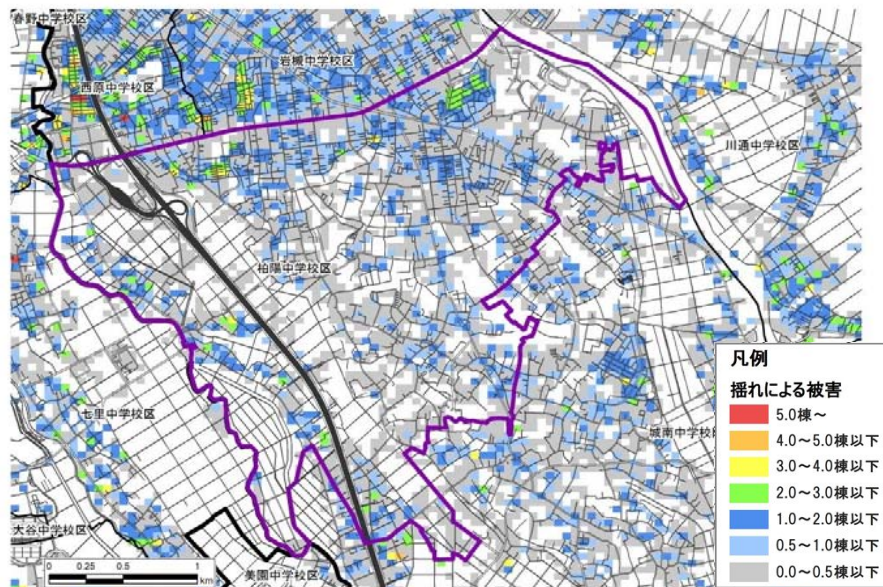
震度分布図



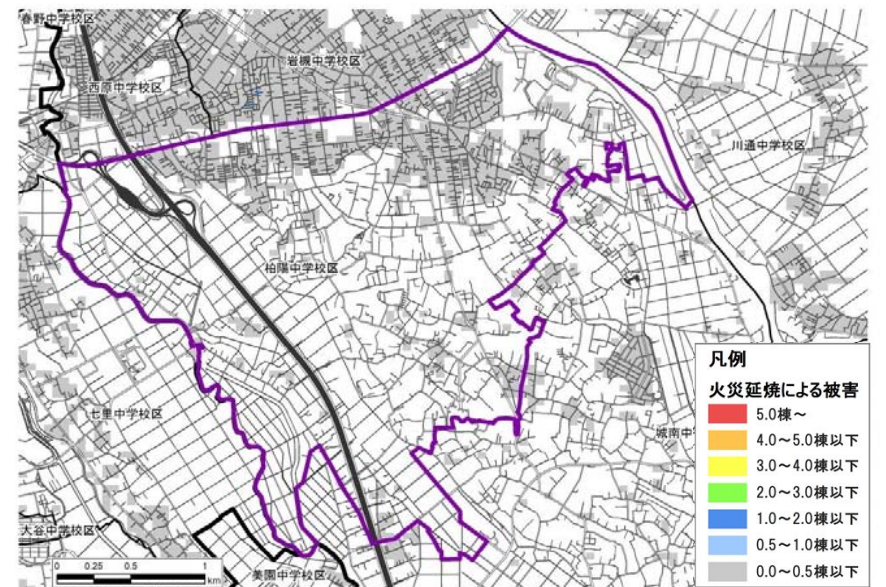
液状化危険度分布図



建物被害分布図（揺れによる被害）



建物被害分布図（火災延焼による被害）

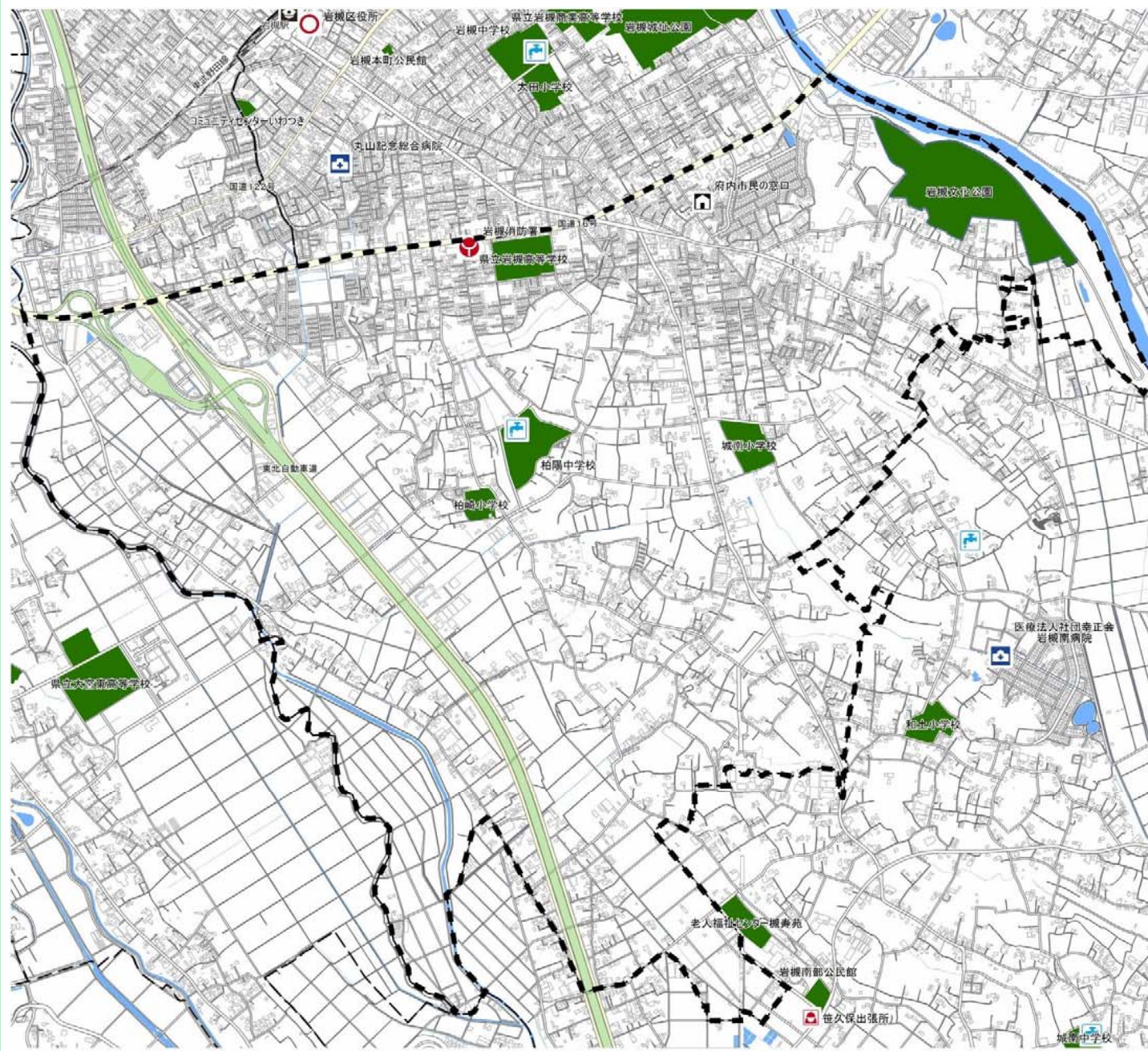


本カルテは一つの例であり、これを基に防災上のポイントや必要な対策について、家族や地域の方々と話合ってみましょう。

③防災マップ

さいたま市防災カルテ

柏陽中学校区



凡例

	避難場所		消防署
	一時避難場所		消防署(出張所)
	広域避難場所		警察署
	市役所		交番・駐在所
	区役所		救急病院
	支所・市民の窓口		応急給水場所

(平成26年2月時点の情報で作成)

メモ欄

